

2018年 南相馬市

被災地からの

新たな出発



2011年3月11日『東日本大震災』から7年

南相馬市被災地では、失った自然環境・人々の暮らし・

伝統文化は？これから？どのように再生されるのか

NPO法人 福島環境カウンセラー協会 長澤 利枝

避難指示区域 <平成 29 年 4 月 1 日時点>



《福島県復興再生特別措置法の改正～H29.9》
将来にわたって居住制限するとされてきた「帰還困難区域」に、避難指示を解除し居住を可能にする「特定復興再生拠点区域」を定めることが可能になった。

(復興庁 HP)

「特定復興再生拠点区域」認定町村

- ・大熊町 平成 29 年 9 月 15 日
- ・浪江町 平成 29 年 11 月 10 日
- ・富岡町 平成 30 年 3 月 9 日
- ・飯舘村 平成 30 年 4 月 20 日
- ・葛尾村 平成 30 年 5 月 11 日



福島県内の TV は、ニュース後「今日の放射線量」が放映される。私たちの一日は、ここから始まる。原発事故から 7 年になるが、この光景は変わらない。仮設住宅から、新築の家や災害公営住宅へと移り住む住民が増えた。しかし期限延長した仮設住宅に未だに住む高齢者がいる。

南相馬市は、国の「避難指示区域」により 3 つの区域 20 km 圏、30 km 圏、圏外に分断された。住民の苦難はこのことから始まった。

7 年を経て、市民たちはようやく「南相馬市はひとつ」の思いを共有出来るようになった。

《南相馬市の概要》

南相馬市は、平成 18 年 1 月 1 日、小高町、鹿島町、原町市の 1 市 2 町が合併して誕生した。

南相馬市の位置は、福島県浜通りの北部で西は阿武隈山脈の麓、北は太平洋に面している。

東京からの距離は 292km で、いわき市と宮城県仙台市のほぼ中間にある。

位置 東経 140 度 57 分 26 秒

北緯 37 度 38 分 32 秒

面積 398.58 km²

(南相馬市HP から抜粋)

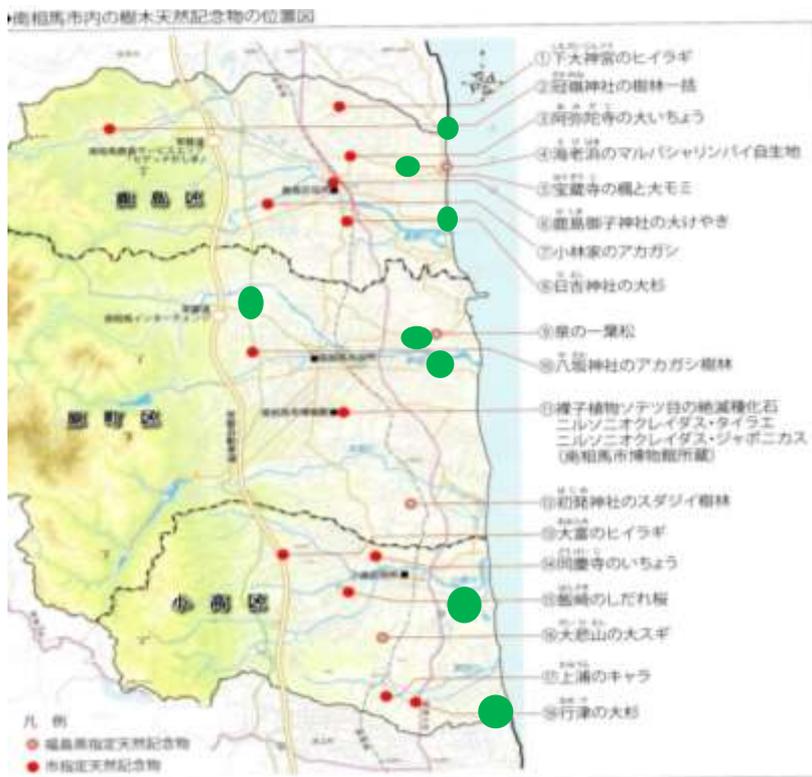


◆ 自然環境の保護と再正

南相馬市の西側には阿武隈山地、東側は丘陵地、台地、低地であり、西側山地からは南相馬市全景が見渡せる。太平洋に向かって33の河川があり、田圃と密接な関係を築いてきた。河川は秋になると、鮭の遡上でにぎわう。東北地方ではあるが、温暖な気候と四季の移ろいは人々の暮らしに、深く関わってきた。

しかし、震災によって自然環境は激変。さらに復興・復旧資源として、里山や豊かな自然林が滅失している。

《南相馬市の樹木天然記念物の位置図》



◆ 山田神社と新生鎮守の杜

高台の避難場所にもかかわらず46人の犠牲者が出た。平成26年、熊本県志岐八幡宮宮司宮崎圀忠氏、人吉市青井阿蘇神社のご支援で、熊本県立球摩工業高校伝統建築専攻科の生徒さんたちが造った仮社殿、鳥居二基が寄贈設置された。翌年に鎮守の杜として植林を行った。



熊本県神社庁長宮崎圀忠宮司氏との偶然の出会い 参道南側：植林2年の樹木

津波をかぶったタブノキ

◆ 「マルバシヤリンバイ」

北限の自生地・鹿島区海老浜の群落は福島県指定の天然記念物である。防潮林の松はほとんどが倒れたが、マルバシヤリンバイの流失は免れた。開花、結実と自然発芽で、群落復活は間近い。 2018.4.14 撮影



《ここに記録したもの》

- 北から南に順番に位置する
- ★ 鹿島区
 - ・海老浜 マルハシヤリンバイ
 - ・北右田桶師屋 タブノキ
 - ・右田谷地 かしまの一本松
- ★ 原町区
 - ・石神 八坂神社アカガシ樹林
 - ・上渋佐 椿樹林
 - ・上渋佐屋敷前 杉林
- ★ 小高区
 - ・浦尻貝塚
- ★ 浪江町
 - ・棚塩地区海岸林

◆ 鹿島区南右田谷地 地区 かしまの一本松

この地には数万本の松林防潮林があり、浜は海水浴場として市民の憩いの場所だった。しかし、防潮林は津波で流失し、一本だけが残った。目通り（1.5m 高の幹周）2m、高さ 25m で頂部には鳥の巣のようなものも残っていた。地元の人々は、「奇跡の一本松」として保存活動を開始。しかし徐々に根腐れが生じ、葉は黄ばんできた。保存会があらゆる手立てを施したが枯死に至った。

平成 29 年 12 月 23 日お別れ会が開かれ、切り倒された。この地は、防潮林造成のため嵩上げされ一本松の 2 世が植栽される。



かしまの一本松 お別れ会



伐採された鹿島の一本松展示



盛土は嵩上げの高さ 一本松と風力発電機

◆ 被災し枯死した屋敷林(いぐね)

震災の津波で消失した多くの屋敷林(いぐね)がある。最近の生活様式の変化により、屋敷林の役割が減ってきている。山沿いに残るものも原発事故で木々が放射能物質に汚染され伐採、消滅した屋敷林も多い。



原町区南萱浜地区 残ったのは屋敷林のみ



津波で枯死 上洪佐屋敷地区 杉林と樺

◆ 津波から免れた樹林

高さ 15m を越える津波は、防潮林をなぎ倒し集落を呑み込んだ。奇跡的に津波から免れた屋敷林と樹木林があった。沿岸に関わらず微妙な地形により津波が拡散されたためである。タブノキなどが残った。



上洪佐原畑 津波を免れた椿群生地



北右田桶師屋地区 津波をかぶった巨大タブノキ (表紙)

◆ 南相馬市と浪江町にまたがる津波を免れた唯一の海岸林

浪江町棚塩地区の町有地海岸林は、伐採され水素製造工場建設が始まった。多様な生態系が残存していた豊かな海岸林は、復興という名の下に消失させられた。南相馬市は保存の予定である。



2017.9.18 津波を免れた豊かな海岸林

2018.5. 2 海岸林は伐採され整地作業の重機が稼働

◆ 防潮林の再生

防潮林の復旧が進んでいる。植栽木はクロマツで、沿岸が防潮林でつながるには大分間がある。

第 69 回「全国植樹祭」は、2018.6.10 開催する。津波で壊滅した原町区雫地区海岸で行われる。この地域は迅速に道路整備が進み、防潮堤はほぼ完成した。防潮林といっても保護が必要な苗木で、囲いが整然と並ぶ。



「植樹祭」 天皇・皇后両陛下お立ち台 準備が進む開催地

苗木の枠組み材の組立て

復興ボランティアによる照葉樹の植栽もある。混植なので成長過程において、樹木の自然淘汰が予想される。



鹿島区右田浜 防潮堤照葉樹の植栽 1 年目

県立相馬農業高校農業クラブによるハマナス植栽地 1 年目

2. 自然環境復元のために

津波から免れても、相双の山地は地図が変わるほどの土砂採取が行われ、植物はダメージを受けている。現存する緑地は、この地に存在する貴重な種も、普遍的な種も、すべてが郷土の宝、遺伝子的に受け継がれるべきものであり、食文化として暮らしになくてはならないものである。

南相馬市には多くの樹木天然記念物が指定されている。これらは土地の歴史を物語るシンボルであり、地域の自然の特性を知る貴重な存在として、先祖代々、地域の人々に守られてきた樹林である。今回は前述の浪江町との境の海岸林と以下2か所を記した。

◆ 消えた里山と私たちの暮らし

身近な里山が崩される。除染だけでなく復旧に使うために。里山の山菜は、放射線で汚染され、採ることが出来なくなった。春はごごみ、ぜんまい、わらび、タラの芽、秋は豊富な種類のきのこ。山菜料理は食卓を潤し、また各家庭で保存される。里山が失われることで、自然と共にあった暮らしは戻らない。



◆ 小高区浦尻南台地区 浦尻貝塚の植生

浦尻貝塚は、海岸から約1kmの高台にあり、浜通り地方を代表する大規模貝塚である。史跡公園は2020年着工予定である。豊かな自然環境を生かし、縄文植生の再現を目的に、ドングリ、クルミ、トチノキなどを主体とした里山とする整備となる。



クルミの花



東側の椿とクルミ林から太平洋を望む



中央部の椿林

◆ 原町区石神地区 八坂神社のアカガシ樹林

神社の石段を上がると遠くに阿武隈山脈、眼下に広い平野が見渡せる。「樹木天然記念物」のアカガシのほか、多様な植生があり、豊かで貴重な自然林として知られる。



参道石段から集落を望む



アカガシ樹林の巨木